

鳴門市ふるさと納税 寄附金充当事業報告

このたびは、鳴門市に心のこもったご寄附を賜りまして、誠にありがとうございました。皆様からいただいた寄附金を活用して、実施した事業をご報告いたします。

なお、平成29年度事業として活用させていただいた寄附金の残額につきましては、鳴門市ふるさと活性化基金に積み立て、今後活用させていただく予定です。引き続き鳴門市に、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

鳴門市長 泉 理彦

● 桑島児童クラブ・林崎児童クラブ建設事業

①子育て支援及び青少年健全育成等の次世代育成支援 ②地域コミュニティ・ボランティア活動の推進

児童クラブの利用希望者が増えている中、児童クラブの老朽化が著しく受入体制が整わず、受入れを制限せざるを得ませんでした。

そこで、児童の放課後の安全・安心な居場所の確保と受入体制の拡充を目的に桑島児童クラブ・林崎児童クラブ両施設の改築・新築工事を行いました。

完成後は、両施設とも子どもたちにとって安全・安心な児童クラブとなっています。



桑島児童クラブ



林崎児童クラブ



● 子どもはぐくみ医療費助成事業

①子育て支援及び青少年健全育成等の次世代育成支援

子どもはぐくみ医療費助成については、平成28年度は、小学校修了までの子どもを対象に医療機関を受診する際の医療費の助成を行ってまいりました。

平成29年度は、同制度の医療費助成対象の拡充を図り、中学校修了までの子どもが医療機関を受診する際の医療費の助成を行いました。

● スクールバス購入・整備事業

⑥教育環境の充実及び生涯学習の推進

鳴門市の小学校（瀬戸小学校）が休校となったことにより、通学距離が長くなった子どもたちが利用するスクールバスを購入しました。

スクールバスがあることで、学校再編に伴う通学距離の延伸による園児・児童及び保護者の心身の負担軽減を図っています。

また、子どもたちが描いた絵をスクールバスにラッピングすることで親しみあるバスとなっています。

● 青少年派遣補助金助成

⑦文化・芸術活動の推進及び文化財の保護活用

ドイツ・リュネブルク市との姉妹都市交流を若い世代に引き継ぐべく、平成25年度より親善使節団に青少年枠を設けています。

また、参加者の負担を軽減し、できるだけ参加していただきやすい環境づくりのため、参加者の旅費の一部を助成しています。

参加者は、現地でのホームステイや学校訪問を通じて友好をはぐくむとともに、国際理解を深め、国際交流や英語学習等に対して意欲的な姿勢を持って帰国しました。



● ヘルストロン設置

②社会福祉及び高齢者福祉の向上

ヘルストロンの設置については、心身機能の改善だけでなく、自宅で過ごすことの多かった高齢者が機器の利用によって地域の人々との交流するためのきっかけづくりや社会参加の充実につながることを目的に市内の10か所に設置しています。

すでに設置している北泊公民館のヘルストロンは、地域の高齢者が定期的に利用するものでしたが、すでに30年以上を経過しており、老朽化が進んでいたため、平成29年11月27日に機器の更新を行いました。

● 救急車附属AEDの更新

④防災・防犯対策及び救急・消防等の充実強化

救急活動において、特に緊急性の高い心配停止状態の傷病者を救うために自動対外式除細動器を購入・更新しました。

● コウノトリ周辺整備

⑨地域ブランド及び地産地消の推進

平成29年3月、鳴門市大麻町に飛来していた、国の天然記念物「コウノトリ」が、昭和46年以降兵庫県以外では、全国初となる自然繁殖をしました。

コウノトリの雛が誕生したことにより、雛を見るため多くの方が巣の周辺を訪れるようになりました。

周辺を訪れる方が増えたことにより、観察マナーの啓発などを目的として、周辺対策警備業務を実施しました。

これにより、平成29年6月には、3羽の雛が兵庫県豊岡市以外では全国で初めてとなる「巣立ち」を迎えました。

● なんとブランドPR事業

⑧地場産品の育成及び企業誘致・就業機会の充実等

地場産品振興対策事業として、平成29年度は首都圏での鳴門市フェアを2回開催しました。首都圏でのフェア開催を通じて、本市の地場産品のPRを行い、本市への誘客を目的とするものであり、商品の魅力を消費者に伝えるため、市内事業者等とも連携し開催しました。地場産品をPRするとともに、ポスター掲示や観光パンフレットの配布による観光・文化などのPRも実施しました。

フェア当日は、たくさんの方にお越しいただき、鳴門市の魅力発信に大きく繋がりました。

